

# 森づくり最前線

吾妻森林管理署 三原森林事務所 森林官 藤原 智史

私が勤務している三原森林事務所は、群馬県の北西部、嬭恋村に位置し、浅間山、四阿山、草津白根山などに囲まれた約7,000㍍の国有林を管理しています。

嬭恋村には数多くの温泉やスキー場があり、夏場は避暑地として、冬場はウィンタースポーツなどで賑わいます。また、夏秋のキャベツの生産量が日本一ということでも有名であり、山地を背景にした広大なキャベツ畑は一見の価値があります。



一面のキャベツ畑と浅間山



特徴的な樹形のカラマツ“仁王松”

「嬭恋」の由来は「ヤマトタケルノミコト」が愛する妻の「オトタチバナヒメ」を想い「ああ・・・あづまはよと、妻恋し」と叫んだことから吾妻、妻恋となったと今に伝えられています。そのことから、嬭恋村では愛妻家の発信基地として、「キャベツ畑の中心で愛を叫ぶ（キャベチュー）」などのユニークなイベントが開催されています。平成23年7月からは、JRと群馬県の共同で実施される一大観光キャンペーン「デスティネーションキャンペーン」に向けて村内の整備も進んでおり、今年で3回目を迎える「嬭恋高原キャベツマラソン」の参加者数や盛り上がりも急上昇を見せています。

管内の国有林の大部分は標高1,000㍍以上に位置しており、人工林の多くはカラマツが植栽されています。見所としては標高1,800㍍に位置する万座温泉と、そこに向かう万座ハイウェイ沿線が挙げられ、標高とともに変化する植生や景色の変化を、四季を通じて楽しむことができます。特に『万座天然カラマツ植物群落保護林（通称：カラマツ母樹林）』は植物の持つ生命のエネルギーを感じます。昭和50年代頃まではその名前のとおり、カラマツの種の採取が行われており、旧草津営林署管内に留まらず優良な種子の供給源となっていました。現在は採種も行われなくなり、夏場は背丈程のササに覆われているため歩くのも困難ですが、積雪期にはスノーシューを用いたスノートレッキングなども催されており、昔とは違ったかたちで地元や観光客の方々に親しまれています。是非一度訪れて頂きたいと思えます。

その母樹林の子ども世代にあたるカラマツも、次々と間伐が必要な時期を迎えています。そこで、これからの森林整備に当たっての間伐方法と低コスト路網を組み合わせた現地検討会を行い、この検討結果を活かした事業の発注を行っています。また、地域の皆さんとの関わりも多く公私共に充実しています。

森林官としての勤務も2年目になりました。山仕事にしても事務仕事にしてもまだまだ経験不足感は否めませんが、それを補えるよう、今後も山にたくさんの足跡を残すと共に、資料の整理やデータの蓄積を常に意識して業務を進め、更に、よりよい形で開かれた国有林を次の森林官、次の世代に引き継いでいきたいと考えています。



カラマツの母樹(樹高27m!)